

博物館だより

No.14

平成 19 年 6 月 1 日
 みやこ町歴史民俗博物館発行
 福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13
 TEL 0930-33-4666
 FAX 0930-33-4667

19年度定期総会開催

5月20日(日)、博物館研修室において、平成19年度の博物館友の会定期総会が開催されました。総会では18年度の事業・決算報告とともに、19年度の事業計画・予算案及び会則改正案等が提案されましたが、いずれも全会一致で承認されました。



友の会ではこの結果にもとづき、19年度もさまざまな事業を展開してまいります。皆様のご参加をお待ちしています。なお、19年度の主な事業は次のとおりです。

- 史跡散策バスハイク(2回実施)
- 九州国立博物館・山鹿市方面歴史たんけんウォーク(3回実施)
- 小倉城下町・英彦山方面ほか文化講演会(7回実施)

東京文化財研究所研究員ほかこのほかにも多くのイベント・学習事業を計画しています。お楽しみに！

企画展のご案内 豊津藩・豊津県の時代展



展示を通してみやこ町の近代が分ります

豊前地方の近代黎明期を担った豊津藩・豊津県の足跡を、ゆかりの品々からたどる企画展です。なお、会期は6月17日(日)までです。この機会にぜひご覧下さい。

■場 所

みやこ町歴史民俗博物館展示室

■主な展示品

小笠原文庫所蔵「豊津藩」「豊津県一関係資料ほか約50点

■観覧料

大人 200円
 高校生以下 100円



錦原城地縄張図(当館所蔵)

▶藩庁建設予定地を示す当時の地図。中央の四角が予定地

博物館友の会会員募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに講演会やバスハイク、史跡巡りなどさまざまな行事を行っています。意欲のある方であればどなたでもお気軽に参加いただけます。ぜひご入会下さい。

♪入会の方法

博物館の窓口で会費を納めてください。博物館の窓口まで来るのが難しい方はご報を！

♪年会費

・個人会員 3000円
 ・家族会員 1名につき2000円

♪備 考

・年度途中からの入会も可能です。
 ・町外の方でも入会できます。

♪お問い合わせ

みやこ町歴史民俗博物館
 TEL 0930-33-4666

歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

6月7日(木) 9:30

【古典かな講座】

6月14日(木) 9:30

【古文書講座】

6月9日(土) 10:00

【初級古文書講座】

6月22日(金) 10:00

【みやこ学講座】

6月17日(日) 9:00

《古文書解読コーナー》

① 平燈

《ヒント》ハンコ

② 常陸

《ヒント》油がとれる

③ 例の

《ヒント》毎年

④ 女島

《ヒント》心やすらか

⑤ 海ほり

《ヒント》海ほり

◎ 答え

(反対向きに見てくたせ)

① 平燈 (ひらあかり)

② 常陸 (ひらぬ)

③ 例の (れい)

④ 女島 (めし)

⑤ 海ほり (うみほり)

知ってるつもりヒト・モノ・コトに意外なドラ...
みやこの歴史発見伝③

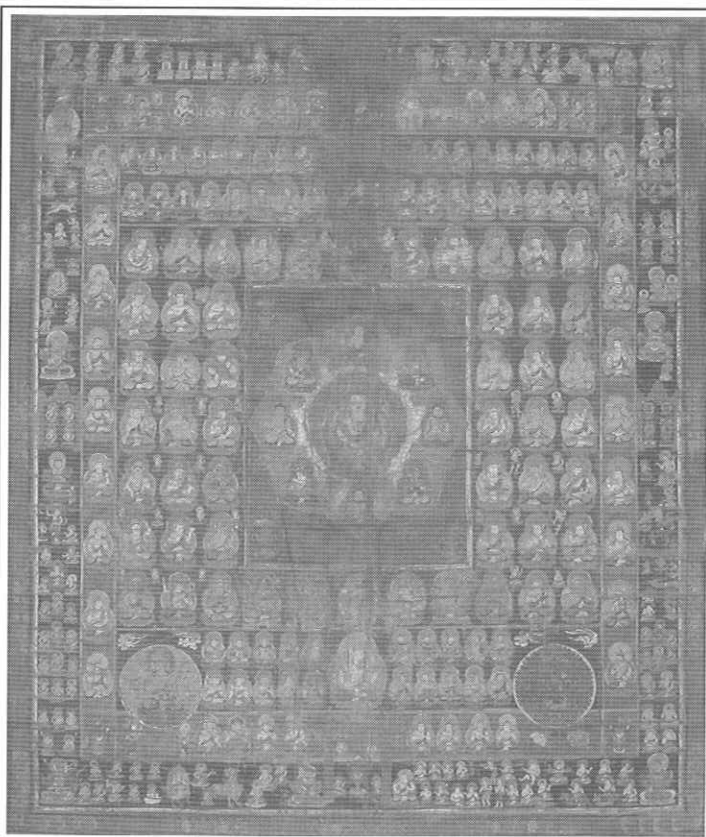
豊前国分寺蔵 胎蔵界曼荼羅図

豊前国分寺

国分寺は、天平一三年（七四一）聖武天皇の勅願、いわゆる「国分寺建立の詔」により建てられた寺院で、奈良・東大寺を総国分寺とし、国分尼寺とセットで国分に建立されました。豊前国の国分寺は、現みやこ町国分地区が建立地に選ばれ、『続日本紀』（八世紀末に編纂の史書）の記述から、遅くとも天平勝宝八年（七五六）までには、ほぼ完成していたもの

たいぞうかいまんだら

と考えられています。国分寺建立の詔には、「必ず好き処を択ひて、実に久しく長かるべし（国分寺は、必ず良い場所を選んで建て、永続させよ）」とありますが、豊前国分寺は行政の中心・国府に近く（豊前国府は現みやこ町国作・惣社地区に所在）高台の、まさに「好き処」に建立されたのです。その後の史料で、豊前国分寺に關するものは多くありませんが、現大分県豊後高田市にある長安寺



▲豊前国分寺 胎蔵界曼荼羅図（豊前国分寺所蔵・当館寄託）
縦237.5センチ×横164.6センチ・絹本軸装

所蔵「太郎天二童子立像」の大治五年（一一三〇）胎内銘（木像の内部に書かれた文字）に、豊前国分寺の僧名が記されています。また、南北朝時代の暦応三年（一三三〇）の史料（西郷文書）に、上毛郡塔田村（現豊前市）の豊前国分寺領に關するものがあります。大友の兵火

伝説によると、豊前国分寺はその後も多くの末寺を抱え、隆盛をきわめました。戦国時代の天正年間（一五七三～一五九二）、豊後の戦国大名・大友宗麟によって焼かれたといわれます。ただ、この時全てが灰になったのではなく、いくつかの建造物や寺物は焼失を免れました。たが、その中の一つに「胎蔵界曼荼羅」があったといわれます。豊前地方には、大友宗麟に焼かれたという「大友兵火伝説」を持つ寺社は多いので、豊前国分寺のそれも慎重に考える必要があります。しかし、大友兵火は伝説にしても、同寺が古くから所蔵してきた「胎蔵界曼荼羅」が、時代の波を乗り越え、近世・近代を経て現在にまで伝えられていることは紛れのない事実です。



▲胎蔵界曼荼羅を収納する木箱。寛永二〇年（一六四三）の銘がある。

曼荼羅は、仏の悟りの世界を象徴的に図化したもので、いくつもの種類がありますが、胎蔵界曼荼羅は金剛界曼荼羅とセットで「阿耨曼荼羅」と呼ばれます。ただ、豊前国分寺の場合、金剛界曼荼羅は、大友の兵火かどうかは別にして、遅くとも江戸時代の初期には失われていたようです。寛永二〇年（一六四三）、小倉藩主小笠原忠真は国分寺所蔵の仏画を修復し、保管用の木箱を託えました（現存）、この時すでに金剛界曼荼羅は存在しなかったことから、もそのことが分かります。

南北朝時代の製作と判明

ところで、平成一六年から一七年にかけて、北九州市立大学 錦織亮介教授と仏教美術研究家林尚史氏により、豊前国分寺の胎蔵界曼荼羅について詳細な調査が行なわれ、本年三月に研究論文が発表されました（『北九州市立大学文学部紀要』七三号）。これにより、次のことが判明しました。

- ① 豊前国分寺の胎蔵界曼荼羅は天台宗系のものであること。これは豊前国分寺が平安時代末期以降戦国時代末まで天台宗の影響下にあり（江戸時代以降は真言宗寺院となる）、その状況下で描かれたためと推察されること。
- ② 描写の丹念さや素材製作の高い技術から、畿内（現大阪府・奈良県と京都府・兵庫県の一部）で製作されたと考えられること。
- ③ 製作年代は一四世紀後半ごろ（南北朝時代）と考えられ、胎蔵界曼荼羅では県内最古であり、また唯一の天台系曼荼羅であること。

現在、この豊前国分寺胎蔵界曼荼羅は、みやこ町歴史民俗博物館に寄託されています。製作から六〇〇年以上が経過し、傷みも進んでいます。錦織・林両氏の研究成果を受けて、修復等の措置が検討されています。

（川本英紀）